

# プログラムの概要

## 1、プログラム名称

雄勝中央病院卒後臨床研修プログラム

## 2、定員

5名

## 3、プログラムの目標と特色

医師としての人格を涵養し、日常診療において頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な診療能力を身につけることを目標とする。

当院は地方の中核病院であり、地域住民はプライマリーケアから専門医療、第2次救急まで幅広い診療を当院に期待している。そのような状況のもと、当プログラムでは、専門に偏らない豊富な臨床経験を積み、適切な初期診療能力を習得できるようにしている。さらに、専門科を決めた後は、その科で専門知識、診療能力の習得が可能である。

## 4、指導体制

初期診療能力の習得に重点を置き、より多くの臨床経験を積めるようにするため、基本的に指導医とのマンツーマン体制で研修を行う。選択診療科は、研修医の要望に応え、将来の進路を視野に入れた研修計画を作成し、幅広い臨床研修を効率的かつ効果的に実践する。

救急医療においては、月3回までの当直業務をもって2カ月間の救急医療研修とする実践的なプログラムとなっている。各科指導医の適切な指導のもと高いプライマリーケアの能力を身につけることができる。

地域医療においては、地域診療所の協力のもと病診連携を含めた地域医療の重要性を理解し、他職種と交流を深め、在宅医療を含めたプライマリーケアの能力を身につけることができる。

## 5、病院概要

病床数 380床

常勤医 32名

標榜科目 内科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科

医療計画上の位置づけ

## 第二次救急医療機関

外来患者数	前年度	202,812 名
救急患者数	前年度	11,967 名
平均在院日数	一般	17.2 日
手術数	前年度	1,441 件
分娩数	前年度	129 件

### 6、プログラム指導者

臨床研修管理委員長 中村正明

プログラム責任者 奥山学

診療科	氏名（職名）	診療科	氏名（職名）
外科	中村 正明（院長）	耳鼻咽喉科	西平 茂樹（科長）
	天満 和男（副院長）		金 洋一（医長）
	奥山 学（科長）	泌尿器科	加藤 慎之介（診療部長）
	日比野 政則（科長）		川崎 芳英（科長）
	佐々木 靖博（医長）	産婦人科	椿 洋光（科長）
麻酔科	矢部 雅哉（科長）	内科	鈴木 一郎（診療部長）
整形外科	鈴木 均（診療部長）		利 栄治（科長）
	浦山 雅和（科長）	小児科	菊地 済（科長）
脳神経外科	大塚 聡郎（科長）	検査科	増田 弘毅（科長）
	大久保 敦也（科長）		
消化器科	塩田 邦晶（科長）		

### 7、研修方法

研修期間は24カ月とし、必修科目、選択必修科目、選択科目の期間は省令で定められた基準をみたすこと。

1年目 必修 内科 6カ月以上

1年目 必修 救急部門 3カ月以上 1カ月：日本救急医学会専門医の指導のもと、通常業務時間内の救急搬送患者への対応、午後の救急患者への対応を研修する。2カ月：月3回までの当直、日直業務をもって（50-60回/2年間）救急研修2カ月とする。

救急当直は、指導医と2人体制で行い、専門科医へのオンコール体制となっている。

1-2年目 選択必修 外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科。この中から2科目を選択し、それぞれ1カ月以上研修する。

2年目 必修 地域医療 当院及び協力型研修病院・協力型研修施設（倶知安厚生病院、湖

東総合病院、北秋中央病院、菅医院) のいずれかで、地域医療研修を1カ月以上行う。

1-2年目 選択科目、内科、消化器科、外科、小児科、産婦人科、麻酔科、脳外科、整形外科、耳鼻科、泌尿器科より選択しそれぞれ1カ月以上の研修を行う。

尚、到達目標に未到達がある場合は、到達目標達成に必要な診療科を割り当てることがある。

ローテーションの順番は、指導医と相談のうえ決定する。将来専門とする科を最初に研修してもよい。

#### 臨床研修を行う分野と研修期間

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次 (期間)	内科 ※1						救急 ※1	選択必修 2科目選択 ※2	自由選択 ※3			
	6カ月						1カ月					
2年次 (期間)	地域医療 ※4	自由選択 ※3										
	1カ月											

#### ◆ 研修病院及び施設

- ※ 1 雄勝中央病院
- ※ 2 雄勝中央病院・佐藤病院（精神科）
- ※ 3 雄勝中央病院・倶知安厚生病院・湖東総合病院・北秋中央病院・佐藤病院  
菅医院
- ※ 4 雄勝中央病院・倶知安厚生病院・湖東総合病院・北秋中央病院・菅医院

#### 教育に関する行事

臨床病理カンファランス CPC 数回/年

院内オリエンテーション（4月）

研修医による救急症例検討会（1回/月）

医局勉強会（上級医による講義）（1回/月）

院内感染対策講演会（2回/年）

AED 講習会

ICLS

JPTEC

緩和医療研修会

## 8、研修評価と研修修了認定

1) 各研修医は、各科終了時点において、研修手帳で自己評価を行う。指導医は手帳を点検し、研修目標達成度を評価する。看護師長がコメディカルスタッフを代表し研修目標達成度を評価する。研修医は指導医評価表を記入し研修管理委員会事務局に提出する。

2) 指導医および研修医は臨床研修の到達度を a:十分できる b:できる c:要努力 d:未実習の4段階で評価する。

c,d 判定は研修修了までに a、b と向上するよう研修医、指導医ともに努力が必要である。未経験のものは、d 判定のままでもよいが、省令により定められた必修項目（レポートを含む）のすべてと経験が求められる病態、疾患 70%以上の経験し評価すること。

3) 2年間の研修修了時に研修管理委員会が上記評価表などを用いて総合的に評価を行う。病院長は研修管理委員会の評価に基づき、研修医が臨床研修を修了したと認めるときは、当該研修医に対して臨床研修修了証を交付する。

## 9、臨床研修終了後の進路

当院で引き続き、後期研修を受けることも可能である。その他、他施設へ勤務や、大学などの後期研修プログラムに応募することも可能である。

## 10、研修医の処遇

採用条件	常勤職員
基本給	・1年次 月額（税込み） 411,200 円（平成 20 年度支給実績）
	・2年次 月額（税込み） 531,400 円（平成 20 年度支給実績）
賞与	・1年次 年額（税込み） 754,900 円（平成 20 年度支給実績）
	・2年次 年額（税込み） 1,246,200 円（平成 20 年度支給実績）
手当	時間外手当、当直手当（月 1～3 回、指導医の指導あり）、通勤手当、住居手当
	【平成 20 年度支給実績 93,000 円（研修医 1 人当たりの平均支給月額）】
勤務時間	8：30 ～ 17：00
時間外勤務	あり
研修医室	あり（1室）
出張	学会、研究会等への参加有（旅費支給有）
	【平成 20 年度参加実績 4.5 回（研修医 1 人当たり）】
休暇	有給休暇（1年次 10 日、2年次 20 日）、特別休日（6 日）、第 2・4 土曜日休日
	【平成 20 年度取得実績 3.5 日（研修医 1 人当たりの年間平均取得日数）】
保険	健康保険、厚生年金、厚生年金基金、労災保険、雇用保険、医師賠償責任保険（病院自体の加入有、個人は任意加入など）
宿舎	無（アパートなど準備し、50,000 円まで病院で負担）

健康診断	年 4 回（自己負担 無）
その他	研修中のアルバイト禁止

#### 11、協力型臨床研修病院

- 佐藤病院 （研修実施責任者：佐藤 恵一）  
（指導医：佐藤 恵一 他）
- 北秋中央病院 （研修実施責任者：野口 博生）  
（指導医：神谷 彰 他）
- 湖東総合病院 （研修実施責任者：小玉 雅志）  
（指導医：中鉢 明彦 他）
- 俱知安厚生病院（研修実施責任者：高橋 雅俊）  
（指導医：萩原 隆 他）

#### 臨床研修協力施設

- 菅医院 （研修実施責任者：菅 一徳）  
（指導医：菅 一徳）

#### 12、採用方法

募集定員：5名

募集方法：公募（マッチングに参加）

応募必要書類：①履歴書（写真添付）ホームページからダウンロードして下さい。

②卒業（見込み）証明書 ③成績証明書 ④健康診断書（大学で行った学生健康診断書提出で可）

選考方法：①面接 ②作文（課題は面接時に指示します）

応募の締切：平成 21 年 7 月末日必着。病院総務課まで、持参または郵送して下さい。

選考の日及び場所：平成 21 年 8 月中に雄勝中央病院で行います。

# 臨床研修の到達目標

## (各科共通)

### 臨床研修の基本理念

臨床研修は、医師が、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

### 行動目標

#### 医療人として必要な基本姿勢・態度

##### (1) 患者—医師関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- 1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
- 2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

##### (2) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、

- 1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 2) 上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- 3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。
- 4) 患者の転入・転出に当たり、情報を交換できる。
- 5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。

##### (3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために、

- 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBM=Evidence Based Medicineの実践ができる。）
- 2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。

- 3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。
  - 4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。
- (4) 安全管理
- 患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、
- 1) 医療を行なう際の安全確認の考え方を理解し、実践できる。
  - 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
  - 3) 院内感染対策(Standard Precautions を含む。)を理解し、実施できる。
- (5) 症例呈示
- チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行なうために、
- 1) 症例呈示と討論ができる。
  - 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。
- (6) 医療の社会性
- 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、
- 1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
  - 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
  - 3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
  - 4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

#### <医療面接>

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

- 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
- 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。
- 患者・家族への適切な指示、指導ができる。

#### <医療記録>

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

- 診療録（退院時サマリーを含む。）を POS（Problem Oriented System）に従って記載し管理できる。

- 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- 診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。
- CPC（臨床病理検討会）レポートを作成し、症例呈示できる。
- 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

#### <診療計画>

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

- 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む。）を作成できる。
- 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。
- 入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む。）。
- QOL（Quality of Life）を考慮にいたった総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。）へ参画する。

#### 必修項目

- 1) 診療録の作成
- 2) 処方箋・指示書の作成
- 3) 診断書の作成
- 4) 死亡診断書の作成
- 5) CPC レポート（※）の作成、症例呈示
- 6) 紹介状、返信の作成

上記1)～6)を自ら行った経験があること（※CPC レポートとは、剖検報告のこと）

# 内科

## 一般目標

患者診察の基本となる病歴、身体所見、病態を正確に把握できるような能力を身に付ける。

## 経験目標

### 経験すべき診療法・検査・手技

#### <基本的な身体診察法>

- 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察をふくむ。）  
ができ、記載できる。
- 胸部の診察ができ、記載できる。

#### <基本的な臨床検査>

- 心電図
- 動脈血ガス分析
- 血液生化学検査
- 細菌学的検査・薬剤感受性検査
- 肺機能検査
- 単純X線検査
- X線CT検査

#### <基本的手法>

- 気道確保を実施できる。
- 人工呼吸を実施できる。（バッグマスクによる徒手換気を含む。）
- 心マッサージを実施できる
- 圧迫止血法を実施できる。
- 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。
- 採血法（静脈、動脈）を実施できる。
- 穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。
- 導尿法を実施できる。
- ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- 胃管の挿入と管理ができる。
- 局所麻酔法を実施できる。
- 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。

- 簡単な切開・排膿を実施できる。
- 皮膚縫合法を実施できる。
- 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
- 気管挿管を実施できる。
- 除細動を実施できる。

<基本的治療法>

- 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。）できる。
- 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。）ができる。
- 基本的な輸液ができる。
- 輸血が実施できる。

経験すべき症状・病態・疾患

<頻度の高い症状>

- 全身倦怠感
- 不眠
- 食欲不振
- 体重減少、体重増加
- 浮腫
- 発熱
- 頭痛
- めまい
- 失神
- 胸痛
- 動悸
- 呼吸困難
- 咳・痰
- 嘔気・嘔吐
- 嚥下困難
- 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- 不安・抑うつ

<緊急を要する症状・病態>

- 心肺停止
- ショック

- 意識障害
- 脳血管障害
- 急性・慢性呼吸不全
- 急性心不全
- 急性冠症候群
- 急性感染症
- 外傷
- 急性中毒
- 誤飲、誤嚥
- 熱傷

<経験が求められる疾患・病態>

血液・造血器・リンパ網内系疾患

- 貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）
- 白血病
- 悪性リンパ腫
- 出血傾向（播種性血管内凝固症候群：D I C）

神経系疾患

- 脳梗塞
- 認知症疾患

循環器系疾患

- 心不全
- 狭心症、心筋梗塞
- 心筋症
- 不整脈（主要な頻脈性、除脈性不整脈）
- 弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）
- 動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）
- 静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）
- 高血圧症（本態性、二次性高血圧症）

呼吸器系疾患

- 呼吸不全
- 呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）
- 閉塞性・拘束性肺疾患
- 肺循環障害（肺塞栓・肺梗塞）
- 異常呼吸（過換気症候群）
- 胸膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）

○肺癌

内分泌・栄養・代謝系疾患

○糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）

○高脂血症

眼・視覚系疾患

○屈折異常（近視、遠視、乱視）

○角結膜炎

○白内障

○緑内障

○糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化

精神・神経系疾患

○不安障害（パニック症候群）

感染症

○ウイルス感染症

○細菌感染症

○結核

免疫・アレルギー疾患

○全身性エリテマトーデスとその合併症

# 消化器科

## 一般目標

日常診療で頻繁に遭遇する消化器疾患に適切に対応できるように基本的な臨床能力を身に付ける。

## 行動目標

- 腹痛患者の初期診療ができる。
- 内視鏡・造影検査などの消化器系検査の結果を解釈できる。
- 腹部超音波検査ができる。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

#### <基本的な身体診察法>

- 腹部の診察（直腸を含む。）ができ、記載できる。

#### <基本的な臨床検査>

- 一般尿検査
- 便検査
- 血算・白血球分画
- 血液生化学的検査
- 細胞診・病理組織検査
- 内視鏡検査（上部・下部消化管）
- 超音波検査（腹部）
- 単純X線検査
- 造影X線検査（上部消化管造影、下部消化管造影）
- X線CT検査
- 腹部MRI
- ERCP
- ヘリコバクター・ピロリ菌の検査
- 肝炎ウイルス検査

#### <基本的手技>

- 胃管の挿入と管理ができる。

経験すべき症状・病態・疾患

<頻度の高い症状>

- 黄疸
- 嘔気・嘔吐
- 胸やけ
- 嚥下困難
- 腹痛
- 便通異常（下痢、便秘）

<緊急を要する症状・病態>

- 急性消化管出血

<消化器系疾患>

- 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）
- 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）
- 胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）
- 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）
- 膵臓疾患（急性・慢性膵炎）
- 横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
9:00	腹部US G I F	腹部US G I F	腹部US G I F	腹部US G I F	腹部US G I F	
10:00						
11:00						
12:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	
13:00	C F	C F	C F	C F	C F	
14:00						
15:00		ERCP	ERCP			

16:00						
17:00						

## 救急

### 一般目標

日常診察で頻繁に遭遇する急性疾患・外傷患者に対して限られた時間内に適切に対応ができるように、入院患者の受け持ちと外来診療によって基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身に付ける。

### 特定の医療現場の経験

#### <救急医療>

- バイタルサインの把握ができる。
- 重症度及び緊急度の把握ができる。
- ショックの診断と治療ができる。
- 二次救命処置ができ、一次救命処置を指導できる。
- 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。
- 専門医への適切なコンサルテーションができる。
- 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
9:00	救急外来 first aid	救急外来 first aid	救急外来 first aid	救急外来 first aid	救急外来 first aid	救急外来 first aid
10:00						
11:00						
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00	救急外来 first call first aid	救急外来 first call first aid	救急外来 first call first aid	救急外来 first call first aid	救急外来 first call first aid	
14:00						
15:00						
16:00						
17:00						

# 外科

## 一般目標

日常診察で経験する外科的疾患に対する基本的な外科的臨床能力（態度、技能、知識）、術前、術後管理を学び全身管理能力を身につける。

## 行動目標

縫合・切開排膿ができる。  
全身麻酔手術例の術前、術後管理を理解できる。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

#### <基本的な身体診察法>

- 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。）ができ、記載できる。
- 胸部の診察（乳房の診察を含む。）ができ、記載できる。
- 腹部の診察（直腸診を含む。）ができ、記載できる。
- 上下部消化管造影検査所見判断ができる。
- 上下部内視鏡検査所見判断ができる。
- 腹部超音波検査所見を理解できる。
- 胸腹部CT所見を判断できる。

#### <基本的な臨床検査>

- 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む。）
- 血算・白血球分画
- 血液型判定・交差適合試験
- 心電図（12誘導）、負荷心電図
- 動脈血ガス分析
- 細胞診・病理組織検査
- MRI検査
- 核医学検査

#### <基本的手技>

- 圧迫止血法を実施できる。
- 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。
- 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
- 穿刺法（腰椎）を実施できる。
- 穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。
- 導尿法を実施できる。
- ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- 胃管の挿入と管理ができる。
- 局所麻酔法を実施できる。
- 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
- 簡単な切開・排膿を実施できる。
- 皮膚縫合法を実施できる。
- 輸液管理、経静脈栄養法ができる。（抹消静脈、中心静脈）
- 経腸栄養法ができる。
- 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。

#### 経験すべき症状・病態・疾患

<頻度の高い症状>

- 全身倦怠感
- 不眠
- 食欲不振
- 体重減少、体重増加
- 浮腫
- リンパ節腫脹
- 発疹
- 黄疸
- 発熱
- 頭痛
- 嘔声
- 胸痛
- 呼吸困難
- 咳・痰
- 嘔気・嘔吐
- 胸やけ
- 嚥下困難
- 腹痛

○便通異常（下痢、便秘）

<緊急を要する症状・病態>

- 心肺停止
- ショック
- 急性呼吸不全
- 急性腹症
- 急性消化管出血
- 外傷
- 急性中毒

<経験が求められる疾患・病態>

血液、造血器、リンパ網内系疾患

○貧血

循環器系疾患

○高血圧症

呼吸器系疾患

○呼吸不全

○呼吸器感染症

○肺循環障害（肺塞栓・肺梗塞）

消化器系疾患

○食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）

○小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）

○胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）

○肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）

○膵臓疾患（急性・慢性膵炎）

○横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）

眼・視覚系疾患

○屈折異常（近視、遠視、乱視）

○角結膜炎

○白内障

○緑内障

○糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化  
感染症

○細菌感染症

物理、化学的因子による疾患

○熱傷

加齢と老化

○高齢者の栄養摂取障害

## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:00		術前カンファランス			術前カンファランス	
8:30	検査・造影検査・GIF	検査・造影検査・GIF	検査・造影検査・GIF	検査・造影検査・GIF	検査・造影検査・GIF	検査・造影検査・GIF
9:30	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
10:00						
11:00						
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00	手術・術後管理	手術・術後管理	手術・術後管理	手術・術後管理	手術・術後管理	
14:00						
15:00						
16:00						
17:00						

# 麻酔科

## 一般目標

術前診察により全身状態を評価し、個々にあった麻酔計画をたて、手術麻酔を通じて呼吸、循環、体液管理を実践し基本的な知識、手技を習得する。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

#### <基本的な臨床検査>

- 血算・白血球分画
- 動脈血ガス分析
- 血液生化学的検査
- 単純X線検査
- ECG、血圧、 $SaO_2$ 、 $ETCO_2$ 、体温などの生体モニタリング

#### <基本的手技>

- BLSにおける気道確保を実施できる。
- 人工呼吸を実施できる。(バックマスクによる徒手換気を含む。)
- 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)を実施できる。
- 採血法(静脈血、動脈血)を実施できる。
- 穿刺法(腰椎)を実施できる。
- 導尿法を実施できる。
- 胃管の挿入と管理ができる。
- 気管内挿管を実施できる。
- ラリングマスク等による気道確保を実施できる。
- 全身麻酔器を使用して全身麻酔を実施できる。
- 観血的動脈圧モニター留置及び評価管理を実施できる。
- 硬膜外麻酔を実施できる。

#### <基本的治療>

- 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療(抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、昇圧剤、降圧剤、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。)ができる。
- 基本的な輸液ができる。

○輸血（成分輸血を含む。）による効果と副作用について理解し、輸血ができる。

●人工呼吸器管理ができる。

### 経験すべき症状・病態・疾患

（手術、麻酔の対象は多彩です。）

<緊急を要する症状・病態>

- ショック
- 意識障害
- 脳血管障害
- 急性腹症
- 外傷

<経験が求められる疾患・病態>

神経系疾患

- 脳、脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）
- 脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）

運動器（筋骨格）系疾患

- 骨折
- 関節、靭帯の損傷及び障害
- 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）

循環器系疾患

- 不整脈（主要な頻脈性、除脈性不整脈）
- 高血圧症（本態性、二次性高血圧症）

呼吸器系疾患

- 腹膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）
- 肺癌
- 喘息

消化器系疾患

- 食道、胃、十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）
- 小腸、大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）
- 胆嚢、胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）
- 横隔膜、腹壁、腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）

腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む。）疾患

- 泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）

内分泌・栄養・代謝系疾患

- 糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）

## 週間スケジュール

※時間はめやすです。手術予定により変わります。

	月	火	水	木	金	土
8:30		術後回診	術後回診	術後回診	術後回診	術後回診
9:00	術前評価 診察	術前評価 診察	術前評価 診察	術前評価 診察	術前評価 診察	術前評価 診察
10:00						
11:00						
12:00	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	
13:00						
14:00						
15:00						
16:00						
17:00	術後回診	術後回診	術後回診	術後回診	術後回診	

# 小児科

## 一般目標

日常診療や救急初期診療で遭遇する頻度の高い小児疾患に適切に対応・処置が出来るように、一般外来診療および入院患者の診療から、小児診療の特性を理解し、基本的な臨床能力を身に付ける。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手段

#### <基本的な身体診察法>

- 小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む。）ができ、記載できる。
- 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。）ができ、記載できる。
- 頭頸部の診察（眼瞼・結膜、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む。）ができ、記載できる。
- 胸部の診察ができ、記載できる。
- 腹部の診察ができ、記載できる。
- 泌尿・生殖器の診察ができ、記載できる。
- 神経学的診察ができ、記載できる。

#### <基本的な臨床検査>

- 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む。）
- 便検査（潜血、虫卵）
- 血算・白血球分画
- 心電図（12誘導）
- 動脈血ガス分析
- 血液生化学的検査
  - ・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 血液免疫血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。）
- 細菌学的検査・薬剤感受性検査
  - ・検体の採取（痰、尿、血液など）
  - ・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- 迅速検査
- 肺機能検査

・スパイロメトリー

- 髄液検査
- 超音波検査（頭部・心臓・腹部）
- 単純X線検査（造影検査を含む）
- X線CT検査
- MRI検査
- 核医学検査
- 神経生理学的検査（脳波）

<基本的手技>

- 気道確保を実施できる。
- 人工呼吸を実施できる。（バッグマスクによる徒手換気含む。）
- 心マッサージを実施できる。
- 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる。
- 採血法（静脈血、動脈血、毛細血管血）
- 穿刺法（腰椎）を実施できる。
- 導尿法を実施できる。
- 浣腸を実施できる。
- 気管挿管を実施できる。
- 除細動を実施できる。

<基本的治療法>

- 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。）
- 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。）ができる。
- 基本的な輸液ができる。
- 輸血（成分輸血を含む。）による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。

経験すべき症状・病態・疾患

<頻度の高い症状>

- 全身倦怠感
- 食欲不振
- 体重減少、体重増加
- 浮腫
- リンパ節腫脹
- 発疹

- 黄疸
- 発熱
- 頭痛
- めまい
- 失神
- けいれん発作
- 結膜の充血
- 聴覚障害
- 鼻出血
- 嘔声
- 胸痛
- 呼吸困難
- 咳・痰
- 嘔気・嘔吐
- 腹痛
- 便通異常（下痢、便秘）
- 関節痛
- 歩行障害
- 血尿
- 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- 尿量異常

<緊急を要する症状・病態>

- 心肺停止
- ショック
- 意識障害
- 急性呼吸不全
- 急性心不全
- 急性腹症
- 急性感染症
- 外傷
- 急性中毒
- 誤飲・誤嚥
- 熱傷

<経験が求められる疾患・病態>

血液・造血器・リンパ網内系疾患

- 貧血（鉄欠乏貧血）
- 出血傾向・紫斑病（播種性血管内凝固症候群：DIC）
- 神経系疾患
  - 脳炎、髄膜炎
- 皮膚系疾患
  - 湿疹・皮膚炎群（接触性アトピー性皮膚炎）
  - 蕁麻疹
  - 薬疹
  - 皮膚感染症
  - オムツかぶれ
- 呼吸器系疾患
  - 呼吸不全
  - 呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、細気管支炎、咽頭炎、肺炎）
- 消化器系疾患
  - 食道，胃，十二指腸疾患（消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）
  - 小腸，大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻、腸炎、腸重積）
  - 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、薬物性肝障害）
- 腎・尿路系
  - 原発性糸球体疾患（急性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）
  - 腎・尿路疾患（尿路感染症）
- 内分泌・栄養・代謝系疾患
  - 低身長
  - 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）
  - 副腎不全
  - 糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）
  - 高脂血症
- 耳鼻・咽喉・口腔系疾患
  - 中耳炎
  - 急性・慢性副鼻腔炎
  - アレルギー性鼻炎
  - 扁桃の急性・慢性炎症性疾患
  - 外耳道、鼻腔、咽頭、喉頭、食道の代表的な異物
- 免疫・アレルギー疾患
  - 川崎病
  - 若年性関節リウマチ
  - アレルギー疾患

物理・科学的因子による疾患

- 中毒（薬物）
- アナフィラキシー
- 環境要因による疾患（熱中症、寒冷による障害）

小児疾患

- 小児けいれん性疾患（熱性けいれん、てんかんなど）
- 小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水疱、突発性発疹、インフルエンザなど）
- 小児細菌感染症
- 小児喘息
- 先天性心疾患
- 新生児疾患（低出生体重児・新生児黄疸）
- 染色体異常症（ダウン症候群など）

<特定の医療現場の経験>

予防医療

- 食事、運動、休養、飲酒、禁煙指導、とストレスマネジメントができる。
- 性感染症予防、家族計画を指導できる。
- 地域・産業・学校保健事業に参画できる。
- 予防接種を実施できる。

周産・小児・成育医療

- 周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療の提供ができる。
- 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- 虐待について説明できる。
- 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。
- 母子健康手帳を理解し活用できる。

## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土				
7:30	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診				
8:00							特殊外来			
8:30	一般外来	一般外来	一般外来	小児神経 (第2)	一般外来	一般外来				
9:00										
10:00										
11:00										
12:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診		病棟回診	病棟回診				
13:00	昼休み	昼休み	昼休み		昼休み	昼休み				
14:00	往診 (月一)	乳児 検診	時間外 外来	喘息外来 (毎週)	小児腎 (隔月第1) 特殊検査	時間外 外来				
15:00	特殊 検査			時間外 外来			小児内分泌 (第3)	時間外 外来	予防 接種	時間外 外来
16:00				小児循環器 (第4)						
17:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診					

# 産婦人科

## 一般目標

### ○症例呈示

産科 分娩から退院までの経過について、症例呈示と討論ができる。

産科入院となった異常新生児について、症例呈示と討論ができる。

産科的疾患で入院管理した症例について症例呈示と討論ができる。

婦人科 良性疾患患者の症例について、症例呈示と討論ができる。

産婦人科関係のカンファレンスや学術集会に参加する。

### ○医療の社会性

産婦人科の特殊性である保険診療と自費診療について理解する。

母体保護法について理解する。

産婦人科としての社会貢献のありかたについて、理解し行動できる。

性教育講座又は、妊婦教室へ参加する。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

<基本的な身体診察法>

○腹部の診察（直腸診を含む。）ができ、記載できる。

○泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む。）ができ、記載できる。

産科

妊婦の産科的診察（妊婦健診など）ができる。

胎児心拍の確認ができる。

子宮口の開大、産徴出血、破水などが理解できる。

分娩時の診察、分娩後の産道の検査ができる。

新生児の診察ができる。

褥婦の診察ができる。

婦人科

内性器・外性器について診察ができ、記載できる。

骨盤・下腹部の診察ができ、記載できる。

骨盤内感染症の診察ができ、記載できる。

#### <基本的な臨床検査>

##### 免疫血清学的検査および微生物学的検査

産婦人科的手法で、検体が採取できる。

微生物学的検査の結果について理解できる。

妊婦の初期スクリーニングの検査結果について理解できる。

性感染症の診断と検査結果について理解できる。

産科的感染症の診断と検査結果について理解できる。

●悪性腫瘍のマーカー検査結果について理解できる。

●性ホルモン検査について理解できる。

##### 新生児の血液生化学的検査

新生児の血液データについて理解できる。

新生児低血糖症、高ビリルビン血症を診断できる。

##### 細胞診・病理組織検査

子宮頸部細胞診、子宮体部細胞診ができる。

細胞診の検査結果について理解できる。

手術標本を適切に処理し、病理伝票を記載することができる。

手術標本などの組織診断について理解できる。

##### CTG検査

NST（CTG）検査を実施でき、検査結果について理解できる。

切迫早産を診断できる。

胎児仮死を診断できる。

陣痛の異常について診断できる。

##### 超音波検査

経腹的・経陰的超音波検査を実施できる。

##### 産科

超音波で正常妊娠の判断ができる。

妊娠初期の胎児心拍を確認できる。

胎児頭臀長を計測し、分娩予定日を決定できる。

妊娠子宮の子宮頸管の観察ができる。

胎児計測を理解し、胎児の予想体重を計測できる。

胎児付属物についての異常を診断できる  
超音波で胎児観察ができる。

#### 婦人科

正常な子宮、卵巣を診断できる。  
産婦人科的な骨盤内腫瘍を診断できる。

#### X線CT検査・MRI検査

骨盤内臓器のオリエンテーションができる  
卵巣腫瘍と子宮腫瘍の鑑別ができる。  
産婦人科的な骨盤内腫瘍を診断できる。

#### <基本的手技>

##### 産科

分娩時に会陰への局所麻酔、会陰切開を実施できる。  
会陰縫合を実施できる。  
臍帯から採血ができる。  
分娩後の新生児の適切な処置ができる。  
アプガール・スコアを理解・判断できる。  
新生児に対してバッグ&マスクによる人口換気を実施できる。  
新生児からの採血ができる。

##### 婦人科

基本的な注射法を実施できる。  
腹腔穿刺ができる。  
導尿法を実施できる。  
静脈麻酔ができ、麻酔下の管理を実施できる。  
経腔的傍頸管ブロックができる。  
術後の創部消毒とガーゼ交換を実施できる。  
分娩時の和痛（無痛）目的の硬膜外麻酔を理解し実施できる。（可能であれば経験することが望ましい）

#### <基本的治療>

産婦人科の術後観察・指導を実施できる。  
術前術後の基本的な輸液療法ができる。  
一般的薬物療法のほかに、女性ホルモン剤を適切に使用できる。  
妊娠悪阻の管理と輸液療法ができる。  
分娩時の異常出血に対して、適切な処置ができる。  
新生児の栄養管理ができる。

新生児高ビリルビン血症に対する治療ができる。

<医療記録>

産科的紹介状を理解し、作成できる。(里帰り分娩などに関するもの)

母体保護法に関連した証書を作成できる。

妊娠に関係する診断書を作成できる。

<診療計画>

産婦人科的な診療計画書を作成でき、患者・家族に説明できる。

分娩に関するクリティカルパスを理解し、活用できる。

退院時、患者・家族に診療経過について説明し、適切な指導ができる。

経験すべき症状・病態・疾患

<緊急を要するもの>

婦人科的な急性腹症

骨盤腹膜炎

子宮外妊娠

卵巣腫瘍茎捻転

緊急を要する産科的病態

○急性腹症

○流・早産及び満期産

○急性感染症

早産

異常分娩

急遂分娩（鉗子分娩、吸引分娩、帝王切開）

骨盤位分娩

多胎分娩

弛緩出血などの分娩時の異常出血

産科的ショック

その他

●婦人科癌における化学療法、緩和ケア

以上について、可能であれば経験し治療に参加する。

## 妊娠分娩と生殖器疾患

- 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥）
- 女性生殖器及びその関連疾患（月経異常（無月経含む）、不正性器出血、更年期障害、外阴・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍）

## 妊娠分娩

- 正常な妊娠経過を判断できる。
- 切迫流産、切迫早産を診断し、治療に参加する。
- 正常分娩を自ら経験し、母児に対するマネジメントができる。
- 急遂分娩（鉗子分娩、吸引分娩、帝王切開）に立ち会う。
- 乳腺炎を診断し、対処・治療ができる。
- 産褥経過異常を判断できる。

## 女性生殖器およびその関連疾患

- 月経異常を診断し、その原因検索ができる。
- 不正性器出血に対して、検査、対処ができる。
- 更年期障害を診断し、治療法を理解できる。
- 女性内性器・外性器の感染症を診断し、治療に参加する。
- 婦人科的な骨盤内腫瘍を診断できる。（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など）

## 感染症

- ウイルス感染症（ヘルペス）
- 細菌感染症（クラミジア）
- 真菌感染症（カンジタ症）
- 性感染症

## 予防医療

- 性感染症予防、家族計画を指導できる。

## 周産・小児・成育医療

- 周産期の適切な医療が提供できる。
- 周産期の心理社会的側面への配慮ができる。
- 母子健康手帳を理解し活用できる。

## 緩和・終末期医療

- 心理社会的側面への配慮ができる。
- 基本的な緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む。）ができる。

○告知をめぐる諸問題への配慮ができる。

### 週間スケジュール

※救急外来と分娩は随時コールされ参加する。

	月	火	水	木	金	土
8:30	病棟処置	病棟処置	病棟処置	病棟処置	病棟処置	病棟処置
9:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
10:00	産科外来	婦人科外来	産科外来	婦人科外来	婦人科外来	産科外来
11:00						
12:00						
13:00			子宮癌検診	子宮癌検診		
14:00	病棟検査		手術	手術	病棟検査	
15:00	病棟指示出し	1 ヶ月検診			病棟指示出し	
16:00						
17:00				病棟カンファレンス		

# 精神科

## 行動目標

### 問診

初診患者の予診を通じ主訴、現病歴、生活歴、家族歴、既往症、病前性格を記載できる。

### 薬物療法

薬物療法の適応が理解できる。

抗不安薬の種類と特徴が理解できる。

抗うつ薬の種類と特徴が理解できる。

催眠、鎮静薬の種類と特徴が理解できる。

### 心理テスト

知能検査（WAIS-R、WISC-R、コース立方体）の特徴が理解できる。

人格検査（ロールシャッハ、バウムテスト、Y-G、クレペリン、TEG、MMPI）の特徴が理解できる。

記名力検査（MMSE、HDS-R）の特徴が理解できる。

### 精神療法

精神療法の種類と特徴についての簡単な理解ができる。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

＜基本的な身体診察法＞

○精神面の診察ができ、記載できる。

### 経験すべき症状・病態・疾患

＜緊急を要する症状・病態＞

○精神科領域の救急

＜経験が求められる疾患・病態＞

精神・神経系疾患

○症状精神病

○認知症（血管性認知症を含む）

○アルコール依存症

○気分障害（うつ病、躁うつ病を含む。）

- 統合失調症（精神分裂病）
- 不安障害（パニック症候群）
- 身体表現性障害、ストレス関連障害

特定の医療現場の経験

<精神保健・医療>

- 精神症状の捉え方の基本を身につける。
- 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
- デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

# 脳神経外科

## 一般目標

すべての医師に求められる基本的臨床能力（態度、技能、知識）を身に付けるとともに、脳卒中、頭部外傷を中心とした脳神経外科臨床における primary care 及び術前・術中・術後管理を学ぶことを目的とする。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

#### <基本的な診察法>

- 神経学的診察ができ、記載できる。

#### <基本的な臨床検査>

- 髄液検査
- 神経生理学的検査（脳波など）
- 神経放射線学的検査（CT、MRI、脳血管撮影など）

#### <基本的手技>

- 穿刺法（腰椎）を実施できる。
- ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- 手術的治療の介助ができる。
- 頭蓋穿孔法ができる（慢性硬膜下血腫における穿頭ドレナージ術）
- 痙攣発作に対する治療法を習得し、てんかんに対する薬物治療ができる。
- 救急処置ができる。
- 終末期医療に対する考え方、患者、家族との人間関係、信頼関係の形成を実践できる。

### 経験すべき症状・病態・疾患

#### <頻度の高い症状>

- 頭痛
- けいれん発作
- 視力障害、視野狭窄
- 意識障害
- 失語症

- 高次脳機能障害
- 髄膜刺激症状
- 頭蓋内圧亢進症
- 四肢麻痺
- 片麻痺
- 単麻痺

<緊急を要する症状・病態>

- 意識障害
- 脳血管障害
- 外傷
- 頭蓋内圧亢進症
- 脳ヘルニア
- 全身痙攣
- てんかん発作

<経験が求められる疾患・病態>

神経系疾患

- 脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）
- 認知症疾患
- 脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下出腫）
- 変性疾患（パーキンソン病）
- 脳炎・髄膜炎・脳腫瘍
- 視床下部・下垂体疾患
- 脳脊髄腫瘍
- 脊椎変形疾患
- 先天奇形・水頭症
- 機能的疾患（痛み不随意運動）

内分泌・栄養・代謝系疾患

- 視床下部・下垂体疾患（下垂体機能障害）

精神・神経系疾患

- 認知症
- 情動不穏

週間スケジュール

※リハビリカンファレンス（月1回）

手術はほとんど随時

	月	火	水	木	金	土
8:30	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討
9:00	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来
10:00						
11:00						
12:00						
13:00	病棟	病棟	病棟 総回診（週1回）	病棟	病棟	
14:00						
15:00						
16:00						
17:00						

# 整形外科

## 一般目標

日常診察で頻りに経験する整形外科的疾患（脊椎、関節疾患、腫瘍性疾患、外傷一般）に対する診断、治療、周術期管理が適切にできるよう、基本的な知識、技能、態度を身に付ける。

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手段

#### <基本的な身体診察法>

- 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。
- 神経学的診察ができ、記載できる。
- 外傷患者の対する臨床的能力を身に付ける。
- 外傷患者の診断に必要な検査を指示できる。

#### <基本的な臨床検査>

- 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む。）
- 便検査（潜血、虫卵）
- 血算・白血球分画
- 心電図（12誘導）、負荷心電図
- 動脈血ガス分析
- 血液生化学的検査
  - ・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 血液免疫血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。）
- 細菌学的検査・薬剤感受性検査
  - ・検体の採取（痰、尿、血液など）
  - ・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- 髄液検査
- 単純X線検査
- 造影X線検査
- X線CT検査
- MRI検査
- 核医学検査
- 神経生理学的検査（脳波・筋電図など）

●脊髄造影、神経根造影、椎間板造影

<基本的手段>

- 気道確保を実施できる。
- 人工呼吸を実施できる。(バッグマスクによる徒手換気含む。)
- 心マッサージを実施できる。
- 圧迫止血法を実施できる。
- 包帯法を実施できる。
- 注射法(皮内、皮下、筋肉、静脈、中心静脈、関節内)を実施できる。
- 採血法(静脈血、動脈血)
- 穿刺法(腰椎)を実施できる。
- ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- 局所麻酔法を実施できる
- 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
- 簡単な切開・排膿を実施できる。
- 皮膚縫合法を実施できる。
- 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
- 気管挿管を実施できる。
- 除細動を実施できる。
- 脊髄造影、椎間板造影、神経根造影が実施できる。
- 神経生理学検査が実施できる。
- 針生検ができる。
- 固定(副子、ギプス)が適切にできる。
- 直達、介達牽引ができる。
- 洗浄、デブリドマン、皮膚縫合ができる。
- 指導医のもとで単純な骨接合、腱縫合ができる。

<基本的治療法>

- 療養指導(安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。)
- 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療(抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。)ができる。
- 関節内注射、局所注射、ブロック注射ができる。
- 基本的な輸液ができる。
- 輸血(成分輸血を含む。)による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。

経験すべき症状・病態・疾患

<頻度の高い症状>

- 腰痛・頸部痛
- 関節痛
- 歩行障害
- 四肢のしびれ
- 血尿
- 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- 骨・軟部腫瘍
- 外傷

<緊急を要する症状・病態>

- 心肺停止
- ショック
- 意識障害
- 外傷

<経験が求められる疾患・病態>

神経系疾患

- 脊髄外傷

運動器（筋骨格）系疾患

- 骨折
- 関節、靭帯の損傷及び障害
- 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニアなど）
- 骨粗鬆症

内分泌・栄養・代謝系疾患

- 蛋白及び核酸代謝異常（高尿酸血症）

感染症

- ウイルス感染症、細菌感染症、結核などによる脊椎炎、関節炎、蜂窩織炎

免疫・アレルギー疾患

- 関節リウマチ

加齢と老化

○老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）

## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30	外来カンファレンス 外来診察	外来カンファレンス 外来診察	外来カンファレンス 外来診察	外来カンファレンス 外来診察	外来カンファレンス 外来診察	外来カンファレンス 外来診察
9:00	外来診察	回診	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察
10:00						
11:00						
12:00						
13:00	検査（随時）					
14:00	手術・回診	手術	手術・回診	手術・回診	手術・回診	
15:00						
16:00						
17:00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	

# 耳鼻咽喉科

## 一般目標

日常診療で遭遇する耳鼻咽喉科疾患に適切に対応できるように入院患者の受け持ちと外来診療によって基本的臨床能力を身につける。

## 経験目標

### 経験すべき症状・病態・疾患

#### <頻度の高い症状>

- めまい      眼振所見をとる
- 鼻出血      キーゼルバッハ部の鼻出血止血
- 嗄声      咽頭ファイバーの適切な使用
- 嚥下困難      食道透視など

#### <緊急を要する症状・病態>

- 誤嚥
- 気道異物
- 咽頭異物

#### <経験が求められる疾患・病態>

##### 耳鼻・咽喉・口腔系疾患

- 中耳炎      耳鏡、診察用顕微鏡を用いた観察・鼓膜切開
- 急性・慢性副鼻腔炎      鼻鏡を用いた鼻内観察・画像診断
- 扁桃の急性・慢性疾患      口蓋扁桃摘出術・睡眠障害の検査
- 外耳道・鼻腔の異物      診察用顕微鏡下に摘出

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土			
8:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診			
8:30	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察			
9:00									
10:00									
11:00									
12:00									
13:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診				
13:30									
14:00									
15:00						学童外来	手術	手術	外来診察等
16:00									
17:00									

# 泌尿器科

## 一般目標

日常診察で頻繁に遭遇する泌尿器科疾患に適切な対応ができるように、入院患者の受け持ちと外来診療によって基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身に付ける。

## 行動目標

尿検査、血液検査ならびに泌尿器科固有の検査の評価ができる。

排尿機能検査とその評価ができる。

膀胱鏡検査とその評価ができる。

慢性腎不全の管理と血液浄化療法の原理を理解し管理できる

## 経験目標

### 経験すべき診察法・検査・手技

<基本的な身体診察法>

○泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む。）ができ、記載できる。

<基本的な臨床検査>

○一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む。）

○超音波検査（腎臓・膀胱）

○X線CT検査

●膀胱鏡

●直腸診

●KUB, DIP

●尿道膀胱造影

<基本的手技>

○導尿法を実施できる。

●中心静脈カテーテルを挿入できる。

●皮膚切開、縫合、抜糸ができる。

●疼痛管理ができる。

●手術の介助ができる。

●HD用ブラッドアクセス留置ができる。

- 血液透析の管理ができる。

#### 経験すべき症状・病態・疾患

##### <頻度の高い症状>

- 浮腫
- 呼吸困難
- 腹痛
- 腰痛
- 血尿
- 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- 尿量異常

##### <緊急を要する症状・病態>

- 急性腹症
- 急性腎不全

##### <経験が求められる疾患・病態>

腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む。）疾患

##### ●泌尿器科的悪性疾患

- 腎不全（急性・慢性腎不全、透析）
- 原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）
- 全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）
- 泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）

妊娠分娩と生殖器疾患

- 男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）

内分泌・栄養・代謝系疾患

- 糖代謝異常（糖尿病の合併症）

感染症

- 性感染症

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30	回診	回診	回診	回診	回診	回診
9:00	外来 (透析回診)	外来 (透析回診)	外来 (透析回診)	外来 (透析回診)	外来 (透析回診)	外来 (透析回診)
10:00						
11:00						
12:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟 or 手術	
14:00	外来検査	手術	手術	手術		
15:00	病棟					
16:00	or					
17:00	手術	病棟	病棟	病棟		
17:30	夜間透析回診		夜間透析回診		夜間透析回診	

## 地域医療

### 一般目標

地域の医療を取り巻く環境を理解し、患者と家族に対し適切かつ誠実な対応のできる医師をめざす。

### 行動目標

- 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解し、実践する。
- 診療所の役割（病診連携への理解を含む）について理解し、実践する。
- へき地医療について理解し、実践する。

### 研修方法

<他施設での研修>

下記協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設で1か月以上診療にあたる。

北海道倶知安厚生病院

秋田県北秋中央病院

秋田県湖東総合病院

菅医院

下記必修プログラムを4週間行う。その後選択プログラムで研修を行うことも可能。

<雄勝中央病院地域医療必修プログラム>

研修方法

- 雄勝中央病院で外来診療、入院診療にあたる。内科を主体とするが、希望により他科の研修も可能。
- 午後は救急外来を担当し幅広い疾患の初期診療を行う。
- 診療所医師とともに診療所で診療または、往診在宅診療を行う。
- 訪問看護センターの訪問看護に同行し診療を行う。
- 地域連携室業務を学ぶ。

地域医療研修必修プログラム

	月	火	水	木	金
第1週	入院診療・外来診療				
研修場所	雄勝中央病院				
第2週	入院診療・外来診療				
研修場所	雄勝中央病院				
第3週	入院診療・外来診療				
研修場所	雄勝中央病院				
第4週	診療所			訪問看護	
研修場所				午後総括（中村）	

<雄勝中央病院地域医療選択プログラム>

- 精神科病院で精神疾患患者の外来、入院診療にあたる。
- 訪問看護センターの訪問看護に同行し診療を行う。
- 診療所医師とともに診療所で診療または往診、在宅診療を行う。
- 複合老人福祉施設で介護医療の現場を体験し、嘱託医とともに診療を行う。
- リハビリテーション医療を体験し、適応、依頼法を学ぶ。
- 調剤薬局で薬局業務を体験し、処方法の理解を深める。
- 精神科研修が終了済みで希望する者は、訪問看護もしくは診療所研修を2週間行う。

地域医療研修選択プログラム

	月	火	水	木	金
第1週	精神医療				
研修場所	佐藤病院				
第2週	訪問看護				
研修場所	雄勝訪問看護ステーション				
第3週	診療所				
研修場所	医師会協力医				
第4週	老人福祉施設		リハビリ	薬局	薬局
研修場所	複合老人福祉施設いさみが岡	雄勝中央病院	雄勝調剤薬局	午後総括（中村）	